

先日、「ツルニンジン」という野草を紹介しました。

この花も「キキョウ」や「ゲンノショウコ」と同じく、“**雄性先熟**”の花で“**雄花期**”と“**雌花期**”があります。  
<http://www.pref.osaka.jp/attach/15501/00099022/120911turunin.pdf>

そしてこの花、

花粉の媒介を何と「**キイロスズメバチ**」に託しているのです！

### 【ツルニンジンの受粉】

- ・花には、5本の雄しべがあって雌しべが成熟する前に雄しべが成熟する。
- ・まだ蕾の時に、その中で雄しべは花粉を出して雌しべの柱頭に付ける。
- ・開花してもまだ雌しべは未熟で閉じているので、受粉しない。
- ・開花時には、雄しべは既に花粉を出し終えて花の内側にへばり付いているが、雌しべの柱頭に花粉が沢山付いている。
- ・花の中の奥の青黒い五角形の部分あたりに「蜜」が出ている。
- ・この「蜜」で「スズメバチ」を花の中に誘い込む。
- ・スズメバチが花の中に入り込み、奥の蜜を舐め、外へ出てくる際に、背中が雌しべの柱頭に当たり、花粉が付着する。
- ・柱頭に付いた雄しべの花粉がなくなった頃、雌しべが成熟して柱頭が大きく割れる。
- ・他の花の花粉を背中に付けたスズメバチが訪花した際に、雌しべにその花粉が付着して受粉・受精する。

このような「**雄性先熟**」という仕組みによって、**自家受粉**を避けているのです。

不思議なことに、この花を訪れるのは「**キイロスズメバチ**」だけで、周りの「アザミ」を訪花していた**マルハナバチ類**はこの花を吸蜜することはありませんでした。

(逆に、マルハナバチがもぐり込んで吸蜜する「ツリフネソウ」には、スズメバチはまったく訪れることがありませんでした...)

ちなみに、北海道産の別亜種は「**ケブカスズメバチ**」と呼ばれているように、本種は他種に比べて全身黄色いうぶ毛に覆われており、このうぶ毛にたくさんの花粉が付着するのです。

写真 ・ 開花した「ツルニンジン」を訪れた「キイロスズメバチ」

写真 : ツルニンジンの花の中

一番奥の青黒い五角形のところに蜜があります。  
この花は、既に雄しべの花粉が雌しべの柱頭から無くなった後で、雌しべが開いています。

写真 : 吸蜜のため、花の中にもぐり込む「キイロスズメバチ」

**写真 : 吸蜜後、後ずさりで出てくるハチの背中に花粉が付着**

この花は、まだ雌しべが未熟の段階で、その柱頭に雄しべの花粉がたくさん付いています。

**写真 : 花から出てきた「キロスズメバチ」**

背中の毛に花粉がべったり付着しています。

**写真 . : 他の花から出てきた「キロスズメバチ」**

**写真 : 「キロスズメバチ」とはち合わせ...???**

こんな接写を試みると、きっと刺されてしまいます！  
では、何故この撮影ができたのでしょうか？  
実は、地面に落ちて死んでいた個体を葉っぱに載せたのです...

**写真 : 「キロスズメバチ」の巣**

18倍ズームを使っただけの撮影ですので、巣から7m以上は離れていました。  
特別大きな巣、という訳ではありませんが、ワーカー（働きバチ）の数が最大となる時期（9月初旬頃）ですので、200匹以上はいるかも知れません。





































